

千葉県立農業大学校の概要

1 本校の設置者

「千葉県立農業大学校設置管理条例」及び「千葉県立農業大学校管理規則」に基づいて千葉県が設置しています。

2 本校の特徴

農林水産省所管の農業改良助長法に基づく「農業者研修教育施設」であり、以下の特徴を有しています。

- (1) 本校は、千葉県農業の担い手を養成する中核的な機関として位置付けられています。
- (2) 本校は、千葉県農業に関わる行政、普及機関、試験研究機関との連携強化を図っています。
- (3) 授業時間の割合は、講義・実験・演習が概ね50%、実習が概ね50%であり、実習を重視した実践的な農業教育を行っています。
- (4) 専攻コースとして、11の多彩な専攻教室（作物、施設野菜、露地野菜、果樹園芸、花き園芸、畜産、情報経営、食品加工、生物工学、土壌肥料、病害虫）を設けています。
- (5) 千葉県における就農準備資金の研修機関に認定されています。
- (6) 農学科1学年全員が「寮生活」を送り、自立と協調の精神、リーダーシップ等のかん養を図ります。

3 「専修学校」のメリット

本校は、文部科学省所管の学校教育法に基づく専修学校で、以下のメリットがあります。

- (1) 卒業生には、農学科、研究科ともに「専門士」の称号を授与します。
- (2) 4年制大学への編入が可能です。
- (3) 独立行政法人日本学生支援機構等の奨学金制度が利用できます。
- (4) 職業安定法に基づく無料職業紹介事業を行っています。

4 農学科及び研究科の概要

(1) 農業専門課程 農学科

ア 修業年限は2年、定員は1学年80名、2学年80名、計160名です。

イ 卒業に必要な授業単位数は112単位以上、授業時間数は2,400時間以上です。

ウ 農業に関する実践的な知識、技術、経営管理能力を有する農業の担い手を育成します。

エ 広い視野を持つための教養科目と農業に関連した専門科目が両立しています。

オ 「農場実習」、「食品加工実習」、「専攻実習」などの実習により、農業又は農業関連産業などで即戦力となる知識と技術を学べます。

カ 「農業派遣実習」により、先進農家や関係機関への派遣等を通じて、実地の農業を体験できます。

キ 「国際農業実習」により、国際感覚を身に付け、異なる気候条件や社会・経済条件の下で行われる農業を体験できます。

ク 1学年の前期は、全ての専攻教室の農場実習を体験し、幅広く学習します。後期から専攻教室に所属し、興味・関心のある分野を掘り下げて学習します。

ケ 2学年では、所属する専攻教室で、自らが課題設定したプロジェクト研究を行い、卒業論文をとりまとめます。

コ 「キャリア基礎講座」など、進路・志望に応じたキャリア教育が充実しています。

(2) 農業専門課程 研究科

ア 修業年限は2年、定員は1学年20名、2学年20名、計40名です。

イ 卒業に必要な授業単位数は105単位以上、授業時間数は2,550時間以上です。

ウ 農業に関する実践的かつ専門的な知識、技術、高度な経営管理能力を有する農業の担い手や指導者を育成します。

エ カリキュラムの中で、農産物の生産から流通までの過程を総合的に学習できます。

オ 1学年から専攻教室に所属して、自らが課題設定したプロジェクト研究を行い、研究成果をとりまとめます。

カ 生徒が運営する「千葉農大商店模擬会社」を通じて、起業・流通・販売の企業的なアグリビジネスを体験できます。

キ 「インターンシップ研修」など、進路・志望に応じたキャリア教育が充実しています。

校訓

「志農創造」

農業を志した以上は、常に高い理想のもとに国際化、技術革新・情報化など、時代の要求を的確にとらえ、旺盛な向学心を持って新しい農業を創造し、その使命に応える農業人とならなければならない。

教育理念

本校は、千葉県農業の発展に寄与する優れた担い手及び指導者の育成を教育目標に掲げ、次の4つを教育理念としています。

- 広い視野を持つ豊かな人間性の形成
- 高度な専門的知識・技術・経営管理能力の習得
- 地域社会における指導者としての資質の養成
- 土に根ざした実践力のかん養

沿革

本校の前身である千葉県農業大学校は、農業短期大学校と農業経営短期大学校を統合し、昭和54年に本県唯一の農業者研修教育施設として、東金市に開校しました。その後、平成24年に専修学校「千葉県立農業大学校」となりました。これまでに3,341名の卒業生を社会に送り出しています。

大学校の組織

千葉県立農業大学校

庶務教務課

大学校の庶務全般をはじめ、施設の維持管理や授業料、奨学金、諸証明等に関する事務、入学試験、就農・就職支援などを行います。

農学科 P.8

2年間で農業に必要な基礎知識と基本技術を学びます。1年生の後期から専攻教室に配属し、それぞれの技術を習得します。1年次は全寮制で自主性や協調性を養います。
(入学生募集) 高等学校を卒業した方、卒業予定の方が主な対象です。

研究科 P.11

農業経営に必要な「経営」や「販売」について千葉農大商店模擬会社の運営に携わりながら、農業経営を学びます。
(入学生募集) 農学科、農業系短期大学を卒業した方、卒業予定の方が対象です。

農業研修科 P.20

県内で新たに就農しようとする方が、平日に専門的な講義と実習を受講する「農業者養成研修(3・6・12か月)」、土曜日を利用して農作業を体験し、基礎的な農業知識を習得する「就農準備講座(7日間)」など、実践的な研修を行います。

機械化研修科 P.21

農業者や新規就農希望者を対象に農業機械の安全操作等に関する各種研修や、トラクター運転免許、けん引運転免許の取得に向けた研修などを行います。

施設の概要

本校は、本館、体育館、学生寮等の施設、学習に必要な設備、実習農場等を備えています。

●本校施設(東金市家之子)

建物・施設 7ha
実習農場等 8ha

●農業研修施設(東金市油井)

実習農場等 4ha

●農業機械化研修施設(千葉市緑区)

運転技能研修コース 4ha



実習ほ場



建ち並ぶハウス群

千葉県立農業大学の魅力

温暖な気候と豊かな大地に恵まれた千葉県は全国有数の農業県であり、当校の多くの卒業生が県内の農業分野で働いています。

このような恵まれた環境の中で実践的な農業を学ぶことができます。

充実したカリキュラム

●幅広く学べるカリキュラム構成

農産物の生産、家畜の飼育をはじめマーケティング、スマート農業、食品加工等農業に関する知識を幅広く習得できるカリキュラムとなっています。



キャリアサポート実習

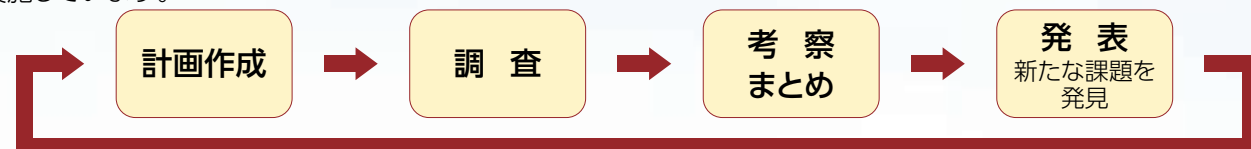
●進路決定をサポート

一人ひとりの進路を実現するために年間を通じてキャリアサポートを実施しています。

◆キャリア基礎講座(農学科) ◆キャリアサポート実習(農学科) ◆職業紹介業務に基づく進路指導(農学科、研究科)

●課題解決型学習の取組

自ら課題を設定し、栽培等計画を作成。課題に基づく調査・研究を行い、成果をまとめ・分析し、課題を解決していく学習を実施しています。



実践農業の体験学習

●先進農家等への派遣実習(農学科)

「農業派遣実習」では、優れた農家等で、一定期間仕事や生活を共にし、農業の優れた栽培技術を学びます。



農業派遣実習

●海外農業を学ぶ実習(農学科)

「国際農業実習」では、日本とは異なる風土で発達した農業や文化に触れ、幅広い視野や考え方を身に付け、国際的な価値観を醸成します。



国際農業実習

●インターンシップ研修(研究科)

「インターンシップ研修」では、優れた農業経営体や農業関連企業・機関等で職場体験を行い、職業観の醸成、経営や販売戦略、消費者重視の生産、流通、地域づくりなどを実践的に学びます。

快適に学べる教育環境



GAP 対応の出荷調製施設



広々とした大講義室



日当たりのよい学生寮

少ない経費負担

経済的な負担を軽減し、無理なく学べる環境を整えています。経費には寮で生活するための食費や光熱水費等も含まれています。また、在学中に下記の支援を受けることが可能です。

- ・日本学生支援機構等の奨学金
- ・就農準備資金(就農予定者が対象、条件有)

農学科1年次の経費(令和8年度計画)

項目	年額(円)
入学金	5,650
授業料	118,800
寮費、寮光熱水費	61,200
諸経費(寮食費、自治会費等)	約428,000
保険、書籍、国際農業実習等	約250,000
合計	約864,000

※農学科2年次は、国際農業実習がないため、合計から約20万円減額となります。

多彩な11の専攻教室(農学科、研究科)

- ◆作物 ◆施設野菜 ◆露地野菜 ◆果樹園芸 ◆花き園芸 ◆畜産 ◆情報経営 ◆食品加工 ◆生物工学
- ◆土壌肥料 ◆病害虫 ※詳細は12ページ以降をご覧ください。

ビジネス感覚を養う農業経営の学習

●専攻実習で直売を実践(農学科)

●経営感覚を学ぶ「模擬会社」(研究科)

- ◆本校で生産した農畜産物や加工品の販売
- ◆ブルーベリー観光農園など、農業経営実習の授業で模擬会社を運営



農畜産物の直売

専修学校のメリット

- ◆専門士(農業専門課程)の称号を付与
- ◆4年制大学への編入学が可能
- ◆日本学生支援機構等の奨学金制度が利用可能
- ◆職業安定法に基づく無料職業紹介
- ◆試験研究や普及指導機関等と連携した学び



研究経験者・農業指導者の授業

多様な免許・資格の取得

- ◆トラクター ◆農業機械士 ◆小型車両系建設機械
- ◆フォークリフト ◆けん引(農耕車限定) ◆家畜人工授精師
- ◆家畜商 ◆日本農業技術検定 ◆日商簿記 ◆毒物劇物取扱者
- ◆食品衛生責任者 ほか

※取得に別途経費が必要な免許・資格が含まれます。



トラクター免許研修

寮生活による仲間づくり

- ◆農学科1年生(全寮制)は寮生活により、協調性や自立心を養うことができます。 ※詳細は23ページをご覧ください。

TOPICS

スマート農業施設・機器を活用した実習

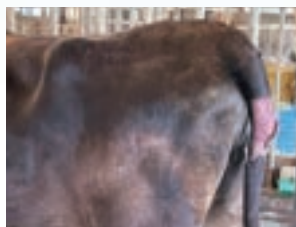
●環境制御ハウス

高さ5.3メートルのハウスで、養液栽培システムを導入しています。この施設では、窓やカーテン、暖房、炭酸ガスの発生機等を自動で制御することができます。現在、学生の研究用にトマトやパプリカを栽培しており、スマートフォン等でハウス環境を整え、植物の管理をデータに基づいて行うなど、研究に有効活用しています。



●牛行動モニタリングシステム

牛の首や尾などに装着したセンサーによって、牛の採食や反芻など様々な行動をモニタリングします。その蓄積データを解析することで、通常、日々の観察で見えている発情や疾病、分娩兆候を検知することが可能となります。解析結果はスマートフォン等にリアルタイムで通知され、学生は観察と照らし合わせながら牛を管理しています。また蓄積データを卒業論文に利用しています。



●食味・収量センサ付きコンバイン

水稻や小麦を収穫しながら、ほ場ごとの水分とタンパクの含有率、収量をリアルタイムで測定することができます。ほ場ごとの品質と収量を把握することで、次作の施肥量や作付計画に反映することができます。



●スマート農業の授業

スマート農業関連機械実演会では、ドローン、自動運転トラクター、ラジコン草刈り機等の最新のスマート農業機械類の操作体験等を行います。

また、スマート農業の導入事例や現場で普及し始めているスマート機器などの先端技術を学ぶことができます。



6次産業化の技術を習得

●食品加工実習(農学科)

農学科の食品加工実習では、農産物の生産だけでなく、加工(2次産業)、販売(3次産業)まで取り組む6次産業化について知識を習得します。農産物の加工技術の基礎や原理について学び、農産物を利活用した食品加工技術を身に付けています。

●加工・商品開発演習(研究科)

研究科の加工・商品開発演習では、テーマとする農産物を取り上げ、商品化に向けて農産物マーケティングを学びながら、年間を通じて加工演習に取り組んでいます。1年間の総まとめとして、協力をいただいた生産者をお招きし、商品成果報告会を行います。



GLOBALG.A.P.の取得推進

農業経営に必須な「労働安全」や「食品安全」、「環境保全」等のGAP(農業生産工程管理)の取組を実践するため、GLOBALG.A.P.認証取得を進めています。

令和6年7月には果樹専攻教室で前年に引き続きブルーベリーの公開審査を受審し、9月に認証を取得しました。学生と教職員が一丸となり取り組み、農薬散布や機械利用など全ての作業について、安全性が担保できる管理手順書の作成などを行いました。

今後も、幅広い品目でGAPの実践を進め、GLOBALG.A.P.認証の取得を目指していきます。



公開審査の様子



認定書が到着!

農場HACCPの取得

家畜の伝染病の発生予防・まん延防止及び畜産物の安全性確保のために、農場管理にHACCPの考え方を取り入れた農場HACCP認証を取得しました。

全国の農業大学校で牛・豚・鶏の3種類の家畜で認証を取得したのは初となります。

学生たちは、危害要因(微生物、化学物質、異物の混入など)を防止するための管理ポイントを設定し、日常の飼養管理で記録を行うことで、家畜伝染病予防や畜産物の安全性確保に取り組んでいます。



書類審査の様子



道具整理